

- ・子どもが読書に興味・関心を持つきっかけを増やす
- ・ビブリオバトル等の読書の楽しさを知るイベントの実施
- ・図書館への利用が困難な子どもへの貸出サービスの充実

第四次 これまでの取組・成果

今後の方向

(1) 乳幼児期の取組

- 絵本リスト「絵本 おはなし・宝箱」の増刷・配付
 - ・乳幼児健診等で、絵本と一緒にリストを配付することで、子どもと保護者が触れ合いながら絵本を楽しむ機会の創出につながった。
- 絵本の送付及び読み聞かせ講師の派遣（「本との出会い事業」※令和7年度で終了）
 - ・絵本の送付 : 30市町村 3,702冊（R7）
 - ・読み聞かせ講師の派遣 : 5市町村（R7）

- ・「絵本 おはなし・宝箱」について、保護者や関係者がより使いやすいものとなるよう、検討する。デジタル化への移行は、利活用の方法を考えて慎重に判断する。
- ・改訂時に二次元コードを挿入し、図書館資料に結びつきやすい環境を作る。

(2) 学童期以降の取組

- 図書館活用講座の実施
 - ・見学受入れ数 : 延べ65団体 2,589人（R7）
- ティーンズに対するイベント等の実施
 - ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座の実施
 - 参加数 : 2校5名（R7）
 - ・高等学校を対象とした図書館活用講座の実施
 - 参加数 : 2校 生徒138名、教員4名（R7）
 - ・全国高等学校ビブリオバトル高知県大会の実施
 - 参加数 : 発表者12名 観戦者38名（R7）
- 読書活動を通じた異年齢交流の促進
 - ・言語能力・情報活用能力育成プラン推進校を中心に各校が取り組んだ。

- ・PRの強化、非来館で図書館の使い方を学べる仕組みを、オンラインの活用も含め引き続き検討する。
- ・ティーンズが図書館に興味を持つように、館内やSNSでの情報発信の方法を工夫する。
- ・全国高等学校ビブリオバトル高知県大会を継続して開催する。
- ・市町村教育委員会と連携し、現状を把握するとともに、好事例を教職員ポータルサイトで発信する。

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

- 対面音訳の実施 利用者数（実人数） : 15人（R7）
- 「さくらバリアフリー文庫」の周知及び利用促進 貸出件数 : 6件（R7）
- 病院・社会福祉施設等への団体貸出
 - 放課後デイサービス事業所等に対して、児童書等の団体貸出を行った。

- ・特性に応じた多様な資料を充実させる。
- ・高知声と点字の図書館と連携し、関係機関等へのPRを継続して行う。

(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

- ・市町村における子ども読書活動推進計画策定への支援
 - 計画の策定状況 : 策定済34市町村（うち12市町村はR7年度までに計画年限が終了）

- ・計画の推進、改定等実施のために情報提供や必要な支援を行う。

基本目標Ⅱ 情報を読み取り活用する子どもを育てる

取組方針2 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進

- ・特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実
- ・1人1台タブレット端末からの高知県電子図書館の利用

第四次 これまでの取組・成果

今後の方向

(1) 学校図書館の機能の充実

- 小学校・中学校・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進
 - ・学校図書館を活用した言語能力及び情報活用能力を育成する授業を実践した。
 - ・取組や研究成果を公開授業や各校のホームページで発信した。
 - ・公開授業を元にした実践事例を作成、教職員ポータルサイトに掲載した。
 - ・情報活用能力年間指導計画を作成し、授業改善を行った。
- 高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進
 - ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を実施した。
 - ・県立図書館主催「図書館サービス研修」への協力を行った。
(高知国際中学校・高等学校図書館での公開授業等)
- 特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実
 - ・オーテピア高知図書館及び市町村立図書館のサービスの活用をした。
 - ・障害の実態に応じて、ICT機器を用いた読書活動の事例を学校間で情報共有できた。

- ・探究的な学びを推進する授業について学校図書館を活用した事例を収集し、教職員ポータルサイト等で周知する。
- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」の開催及び、オーテピア高知図書館等との連携の一層の充実を図る。
- ・ICT教材を含め、多様な教材の活用事例を各校で共有できるように情報共有の場を設定する。
- ・図書室の工夫や児童生徒が使いやすい配置、情報掲示の充実など環境面の改善を推進し、利用促進を図る。

(2) 学校における読書活動の充実

- 図書リスト「きっとある キミの心に ひびく本」の活用 【小・中・義務】
 - ・言語能力・情報活用能力育成プラン推進校において、読書貯金アプリケーションを用いた読書活動の促進

探究的な学びの推進のための端末活用は進んできたが、学校図書館を活用した事例が少ない。

- 生徒の自主的な読書活動の推進 【高等】
「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を通して、公立図書館との連携について情報を共有し、生徒の主体的、探究的な学習につなげることができた。オーテピア高知図書館からの借受け図書の点数が前年より増加した。

朝の一斉読書活動の実施校が、減少傾向にあり、今後の在り方について、検討が必要である。

- 特別支援学校における読書活動の充実 【特支】
公立図書館やボランティアとも連携をとりながら、さまざまな障害の実態に応じた環境整備に取り組むことができた。

- ・学校図書館を活用した言語能力及び情報活用能力を育成する授業について令和の学校教育を考える推進会議等で理解を深める。
- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」の一層の充実を図るとともに、電子図書館の利用を推進し、生徒の主体的、探究的な学習につなげる。
- ・学習活動の中で図書館の使い方を学び、図書や新聞、広報誌などの紙媒体に触れる機会を設定しながら、実態に応じた活動を計画的に取り組めるよう、共有や周知を行う。
- ・電子図書館の利用を促進し、生徒の主体的、探究的な学習につなげる。そのためにも、さらなる書籍の充実や情報発信に努める。

令和8年度高知県子ども読書活動推進協議会資料

基本目標Ⅲ 子どもの読書活動を支える

取組方針3 子どもの読書活動を推進する人材の育成

- ・子どもが興味・関心を持てる計画的な環境づくり
- ・推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」の活用
- ・読書ボランティアの養成とスキル向上の機会の提供

取組方針4 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

- ・コミュニティスクールや地域学校協働本部、教育機関等と連携した読書活動の推進

第四次 これまでの取組・成果

○子どもが興味・関心を持てる計画的な環境づくり

- ・親育ち支援保育者研修等で子どもの発達段階に配慮した絵本コーナー等の環境構成の工夫の周知
- ・読書活動に関する園内研修や保護者への啓発等の取組の周知・確認

○保育者への園内研修等の充実

- ・親育ち支援の保護者講話で、親育ち支援アドバイザーが読み聞かせや読書活動の大切さを伝えることによる保護者の読書活動への意識の向上

読書活動に関する状況調査（R7）：

「保護者や図書館職員、ボランティアなどと連携した読書活動を行ったか」64.5%
うち、「連携の対象が保護者」32.6%

○「絵本 おはなし・宝箱」の活用

読書活動に関する状況調査（R7）： 「絵本お話宝箱を活用したか」90.0%

○読書ボランティアの養成とスキル向上の機会の提供

- ・読書ボランティア養成講座の実施

修了者： 19名 うち、学び場人材バンクへの登録者 3名

講座を修了したものの活動の場が見つからない、活動の仕方が分からない、など、市町村等からの需要に対しミスマッチが起きている。

○市町村立図書館職員等への訪問支援・研修の実施

- ・巡回訪問の実施状況 延べ69回（R7）
- ・どこでも・いつでも研修の実施状況 6回（R7）

○文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発

- ・令和8年度表彰校等： 香美市立山田小学校、森尾 靖子氏（高知市）

○教職員等の学校図書館活用力の向上や学校教育に役立つ情報の提供

- ・司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会の実施 【高校】
- ・保育技術専門講座Ⅲの実施（教育センター主催）
- ・若年教育研修のしおりの作成

教員向けの貸出について十分に認知されておらず、学校司書以外の教職員に対するアプローチが必要。

今後の方向

- ・各園の好事例の紹介や園内研修等の実施の啓発を行う。

- ・親育ち支援の保護者研修、保育者研修において保育者、保護者へ読書活動の重要性について啓発していくとともに、園には、読書活動について学び場の設定の工夫や、保護者等との連携の大切さについても知らせていく。

- ・「絵本 おはなし・宝箱」について他園の活用方法を紹介し、取組の推進を図る。

- ・引き続き読書ボランティアの養成を続けるとともに、実際の活動につながるよう、ボランティア同士の情報交換を促進できる交流会等を実施する。
- ・読書ボランティア調査の結果を基に、活動者と活動場所とのマッチングを行う。

- ・引き続き研修を実施し、継続的に人材育成を進める。

- ・引き続き、「子ども読書の情報館」（文部科学省）のホームページに事例を掲載するとともに、『夢のかけ橋』（高知県教育だより）等で活動を紹介する。

- ・学校図書館におけるICTの活用についての研修会実施の要望に応えられるよう、オンライン研修での実施を検討していく。
- ・教科研究センターでは、今後も学校教育の参考となる図書や雑誌を配架し、その情報提供にも努める。
- ・授業への活用に加え、校内研修や研究部会等、教職員による業務での図書館活用についても提案し、利用を促進していく。
- ・校長会や教員研修等の機会を通じて、広く図書館サービスの周知を行う。

○コミュニティ・スクールや地域学校協働本部、教育機関等と連携した読書活動の推進

- ・「読み聞かせ」等の読書活動は、保護者や地域の方々子どもたちとの良いコミュニケーションとなり、双方に良い相乗効果が得られる。

- ・地域学校協働活動研修会等の場で、読書ボランティア養成講座等のチラシを配布し、地域で本や読書に親しむ活動が推進されるよう、子どもの読書に関する情報提供を行う。

横断的取組 オーテピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 (1) 市町村立図書館や学校図書館への支援

- ・市町村立図書館におけるティーンズ・サービス実施のための支援
- ・探究的な学習や語学学習等に活用できる電子書籍の充実
- ・移動図書館や訪問支援を通じた公立図書館未設置自治体に対する読書機会の提供やニーズ喚起等

第四次 これまでの取組・成果

○市町村に対する読書機会の提供やニーズ喚起

- ・自治体職員図書館担当者研修の実施
- ・移動図書館による図書の配本・交換

○探究的な学習や語学学習等に活用できる電子書籍の充実

- ・「高知県電子図書館」において、アクセス数無制限の「読み放題パック」（児童・ティーンズ向け）を導入（R7）。
- ・電子書籍利用可能タイトル数： 13,367点（R7）
- ・電子図書館の閲覧回数（電子雑誌を含む）： 53,741回（R7）
- ・学習成果物の掲載数： 4校172点（R7）

○市町村立図書館及び県立学校等への支援

- ・協力レファレンスの実施 受付件数： 196件（R7）

レファレンス・サービスを十分に実施できている市町村立図書館が少なく、利用者のニーズについて喚起できていない

- ・市町村立図書館や県立学校等へのまとめ貸しの実施

協力貸出点数＜含児童書・県立学校への貸出分を除く＞
県立学校等の団体貸出点数： 8,456点（R7）

○児童書の全点購入による市町村立図書館・学校図書館等選書支援

- ・児童図書選定支援コーナーは他のイベントや研修の開催に併せて利用する団体が多く、特に、夏休み中は数多く利用された
選定支援コーナーの利用件数： 27件（57名）（R7時点）
- ・児童図書研究コーナーでの資料提供
- ・市町村立図書館向け・県立学校向けのブログや広報紙等での情報発信

今後の方向

- ・第四次計画の実施状況を踏まえ、引き続き研修事業を中心に実施する。
- ・移動図書館について、図書館未設置町村への重点的な巡回へ移行する
- ・サービスの周知と電子書籍の充実に重点的に取り組む。
- ・引き続きレファレンスへの支援に取り組むとともに、地域課題に関連した図書セットの貸出・展示等、市町村立図書館が情報提供機関として住民に認知してもらえる環境づくりの支援を進める。
- ・授業での図書セットの活用方法など、具体的な提案も含めて説明を行い、利用を促進していく。
- ・学習指導要領や教科書の改訂等の状況も踏まえながら、支援用図書の収集を行う。
- ・児童図書研究コーナーにおいて引き続き資料の収集に取り組みながら、より多くの方に利用してもらえるようなPR、選書についての研修について実施を検討する。
- ・児童図書研究コーナーがより利用しやすいコーナーとなるように、配架方法の工夫などを検討する。
- ・引き続き、研修やイベント等の機会を通じてPRに取り組む。
- ・今後も対象者に届くような方法で、対象者が必要としている情報の発信を行う。

I 意欲的に読書を楽しむ子どもを育てる
1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (1) 乳幼児期の取組 (2) 学童期以降の取組 (3) 特別な支援が必要な子どものための取組 (4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (1) 乳幼児期の取組	
①ブックスタート等における本と出会う場づくりの普及・促進	生涯学習課
子どもが初めて本と出会い、保護者が一緒になって読書を楽しむ場づくりを推進するため、県内市町村において実施される0歳児健診の場などを活用し、子どもが初めて出会う本を選びたい時などに参考となるよう県教育委員会が作成した推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」を配付します。推薦図書リストを通じて読みたい本をすぐに手に取れるよう、二次元コード等によりオーテピア高知図書館につながり、子どもが読みたい興味・関心のある本をスムーズに探すことができるように取り組みます。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
・「絵本 おはなし・宝箱」を増刷し市町村や関係者に配付した。 ・「絵本 おはなし・宝箱」から選定した絵本を乳幼児健診等で配布できるよう、市町村の希望に応じて送付した。 (「本との出会い事業」R4～7年度)	【成果】 ・乳幼児健診等で、絵本と一緒にリストを配付することで、子どもと保護者が触れ合いながら絵本を楽しめる機会の創出につながった。
	【課題】 ・図書館資料等に結びつきやすい環境が作れていない。
	【今後の方向】 ・「絵本 おはなし・宝箱」について、保護者や関係者がより使いやすいものとなるよう、検討する。デジタル化への移行は、利活用の方法を考えて慎重に判断する。 ・改訂時に二次元コードを挿入し、図書館資料に結びつきやすい環境を作る。
◆参考数値 ・「絵本 おはなし・宝箱」の配付数 R7年度：5,209部、R6年度：5,180部、R5年度：6,448部 ・「本との出会い事業」市町村の活用状況 ○絵本の送付 R7年度：30市町村、送付冊数3,702冊 R6年度：31市町村、送付冊数3,641冊 R5年度：30市町村、送付冊数4,383冊 R4年度：32市町村、送付冊数3,783冊 ○読み聞かせ講師の派遣 R7年度：5市町村、R6年度：5市町村、R5年度：5市町村、R4年度：5市町村	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (2) 学童期以降の取組	
①「生活リズムチェックカード」を活用した読書習慣の定着	生涯学習課
「早ね早おき朝ごはん」県民運動と連動して「生活リズムチェックカード」を活用し、児童生徒の読書習慣を含む生活習慣をチェックし目標点数を達成した子どもに認定証を発行します。家族と一緒に読書活動が生活の中に定着していくように取り組みます。	
四期の取組状況 (D)	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
・県内小・中学校に、今年度の生活リズムチェックカードの取組についての文書を発出した。(4月)	【成果】 ・家庭で取り組むことを通して、児童生徒の生活習慣において読書について考えるきっかけの一つとなっている。 【課題】 ・生活習慣に課題のある児童生徒もあり、より多くの家庭で取り組んでもらえるよう、引き続き啓発をしていく必要がある。 【今後の方向】 ・これまでの取組を継続しつつ、保幼小中PTAと連携を図りつつ、さらなる活用促進に努める。
◆参考数値 ・生活リズムチェックカード 取組状況(保幼小中全体)(延べ) R7年度:取組学校園所数 278、取組人数 28,371名、認定者数 11,213名、認定率 40% R6年度:取組学校園所数 292、取組人数 28,862名、認定者数 11,846名、認定率 41% R5年度:取組学校園所数 270、取組人数 40,112名、認定者数 15,472名、認定率 38.57% R4年度:取組学校園所数 306、取組人数 40,484名、認定者数 16,341名、認定率 40.4%	
②多様な読書の推進(「きつとある キミの心に ひびく本」の配付)	小中学校課
文学的な読み物に留まらず、新聞や科学雑誌等を含めた、多様な種類の読み物に親しみ、学習にも活用できる「きつとある キミの心に ひびく本」を小学生・中学生向けに作成します。また、県内全ての小学校、中学校に導入した1人1台タブレット端末から利用できる「学習支援プラットフォーム 高知家まなびばこ」に掲載し、児童生徒や教職員が閲覧できるように取り組みます。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
・「きつとある キミの心に ひびく本」を学習支援プラットフォーム 高知家まなびばこ、教職員ポータルサイトに掲載した。 ・言語能力・情報活用能力育成プラン指定校において、「きつとある キミの心に ひびく本」を活用し、学校図書館教育に関する動画や授業実践事例の作成、読書貯金アプリケーションを用いた読書活動を行った。 ・授業実践事例は、教職員ポータルサイトに掲載した。また、動画や実践事例等の掲載についてのチラシを作成し、市町村教育委員会に周知を行った。	【成果】 ・「きつとあるキミの心にひびく本」を、児童生徒や教職員が必要な時にいつでも閲覧し、活用できるようになった。 ・言語能力・情報活用能力育成プラン指定校においては「きつとあるキミの心に ひびく本」を活用した読書活動に意識的に取り組むことができた。 【課題】 ・「全く読書をしない」児童生徒の割合が増加している。 ・新聞を読む児童生徒の割合が減少している。 【今後の方向】 ・読書(図書館資料の活用を含む)の意義を伝えるとともに、「きつとある キミの心に ひびく本」の活用例について発信する。
◆参考数値 ・「全く読書をしない」児童生徒の割合(%) (小6、中3) 【小】R7年度:28.1、R6年度:24.3、R5年度:23.6 R4年度:24.0、R3年度:22.4 【中】R7年度:44.6、R6年度:46.2、R5年度:35.7、R4年度:36.3、R3年度:33.6 ・新聞を読む児童生徒の割合(%) (小6、中3) 【小】R7年度:10.7、R6年度:11.0、R5年度:12.7、R4年度:14.8、R3年度:17.4 【中】R7年度: 5.0、R6年度: 6.7、R5年度: 7.3、R4年度: 8.4、R3年度: 9.9	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (2) 学童期以降の取組

③図書館活用講座の実施

県立図書館

子どもたちが、本やインターネット等の様々な情報源から目的に応じて情報を活用できるように、資料や情報を検索する方法や分類の仕組みを学ぶ機会を、図書館の子ども向け行事として提供できるように取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・小学校等の図書館見学時に、分類の見方や書架での本の並び方、本の検索方法など、図書館の使い方について説明を行った。
- ・子どもたちが学校で使用しているGIGAスクール端末や自宅からも所蔵検索・予約ができることを実際の画面を操作しながら案内した。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・「図書館見学の説明がわかりやすい」と子どもから好評で、図書館の利用促進につなげることができた。
- 【課題】
- ・オーテピアに来館できない子どももいるため、そういった子どもたちが地域の図書館を利用できるよう、自宅や学校からでも図書館の使い方を学べるような機会を設けることが必要。
- 【今後の方向】
- ・非来館で図書館の使い方を学べる仕組みを、オンラインの活用も含め引き続き検討する。

◆参考数値

- ・見学受入れ数（延べ）
R7年度：65団体 2,589人、R6年度：80団体 2,965人、R5年度：65団体 2,927人、R4年度：86団体 3,023人

④ブックリスト・パスファインダーの作成・提供

県立図書館

子どもたちの関心の高いテーマに関するブックリストや資料・情報を探す方法を簡単にまとめたパスファインダーを作成し、ウェブ・サイトにも掲載することで、子どもたちの興味・関心を本や読書につなげるように取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・ブックリストやパスファインダーを作成し、子どもたちの手に取りやすさにも配慮しながら館内で配布した。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・パスファインダーの「しらべものガイド～お仕事編」はよく手に取られており、子ども自身での調べものをサポートできた。
- 【課題】
- ・より子どもたちの興味に沿った内容でブックリスト・パスファインダーの種類を増やす必要がある。
- 【今後の方向】
- ・学校・保育職員への支援を通じて、子どもたちに資料を届けられるよう、学校や園で活用できるブックリストやパスファインダーを作成・提供するとともに、PRを継続的に実施する。

◆参考数値

- ・ブックリスト作成数 R7年度：1種、R6年度：1種、R5年度：2種、R4年度：1種
- ・パスファインダー作成数 R7年度：0種、R6年度：0種、R5年度：1種、R4年度：1種

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (2) 学童期以降の取組

⑤10 代の若者（ティーンズ）の興味関心に応えるためのティーンズ・サービスの実施

県立図書館

10 代の若者（ティーンズ）の興味・関心に応える図書、学校等での学習内容を深めることのできる資料等を収集・提供します。図書館が持つ豊富な蔵書を利用した学習の場を提供するとともに、ティーンズが仲間と交流できる場づくりにも取り組めます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・パスファインダー「ぼけぼす(ポケットパスファインダー)」の改訂や、ブックリストの新規作成を行った。
- ・探究科のある高校等の生徒に対して図書館活用講座を行った。そのほかにもオリエンテーションや図書館見学を実施した。
- ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座を日本政策金融公庫と共催し、プラン作成に役立つ図書館資料やデータベースの紹介等を行った。
- ・高校を訪問し、教職員・生徒向けのサービスや図書館活用講座について説明した。
- ・ティーンズ向けの電子書籍の充実を図った。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

- ・リサーチクエスチョンへの回答用参考図書の提供や館内見学ツアーが特に好評であり、図書館の利用促進につながった。

【課題】

- ・交流の場づくりが進んでいない。

【今後の方向】

- ・各講座の参加者（校）が増えるよう、高校訪問等の機会にPRを行う。
- ・ティーンズが図書館に興味を持つように館内やSNSでの情報発信の方法を工夫する。

◆参考数値

- ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」プラン作成講座参加者
R7年度：2校5名、R6年度：3校9名、R5年度：4校1日目6名・2日目8名、R4年度：2校2名
- ・図書館活用講座参加者（高校）
R7年度：2校（生徒138名、教員4名）、R6年度：2校71名（生徒64名、教員7名）、
R5年度：1校23名（生徒20名、教員3名）、R4年度：1校31名（生徒28名、教員3名）

⑥ビブリオバトル等の読書の楽しさを知るイベントの実施

県立図書館

本を紹介し合い、どの本が一番読みたくなったか投票で決める「ビブリオバトル」や自分が推薦したい本の魅力等を語り合う等、読書の楽しさを共有したり、同世代に読書の楽しさを発信できるようなイベントに取り組めます。また、10 代の若者（ティーンズ）自身がイベントを企画するなどしてティーンズの参加促進に取り組めます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・全国高等学校ビブリオバトル高知県大会を開催し、大会前後には関連図書の企画展示を行った。
- ・学校等と連携し、生徒や連携機関のおすすめ本の展示等を行った。
- ・月に一度「ティーンズ部の本棚・番外編」と題し、職員からティーンズ向けのおすすめ本の紹介をSNSで行った。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

- ・ビブリオバトル関連展示は貸出数が多いなど好評で、ビブリオバトルの魅力を伝え、新たな本との出会いの創出につながった。
- ・生徒手作りのPOPを連携展示に活用することで、利用者の目に留まりやすくなり、利用促進につながった。

【課題】

- ・ティーンズと図書館をつなぐコンテンツが不足している。

【今後の方向】

- ・全国高等学校ビブリオバトル高知県大会を継続して開催する。
- ・引き続き、ティーンズからの投稿募集を行うとともに、ティーンズに向けた情報発信を積極的に行う。
- ・ティーンズの参加促進につながる取組について検討する。

◆参考数値

- ・全国高等学校ビブリオバトル高知県大会参加者
R7年度：発表者12名・観戦者38名、R6年度：発表者16名・観戦者61名、R5年度：発表者16名・観戦者57名、
R4年度：発表者12名・観戦者25名
- ・ティーンズからの投稿件数
R7年度：14件、R6年度：14件、R5年度：21件、R4年度：29件

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (2) 学童期以降の取組

⑦読書活動を通じた異年齢交流の促進

小中学校課・高等学校課（・生涯学習課）

小学生や中学生、高校生が、保育所・幼稚園等で読み聞かせ等を行うなど異なる年齢の子ども同士が交流することで、読書への興味・関心を高め、子どもたちが絵本や物語等の多様な本に触れる機会をつくります。また、交流事例等をホームページ等で情報発信するよう取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
●小中学校課 ・図書委員会の児童が他学年の児童に読み聞かせをしたり、国語科の授業において、他学年に紹介等を行うことを目的として図書を活用した学習に取り組んだりする場面が見られた。 ・読書活動を通じた異年齢交流について言語能力・情報活用能力育成プラン指定校を中心に各校が取り組んだ。また、事例を、指定校のホームページや高知県学校図書館研究大会等を通して発信した。 ●高等学校課 ・高校生が、授業やボランティア等で園児に絵本の読み聞かせを行った。	【成果】 ●小中学校課 ・特に指定校においては、引き続き、「学校図書館年間計画」の見直しを図ったり、全教職員で共通認識を図ったりすることで、校種間のつながりを意識しながら取り組んでいる。 ●高等学校課 ・読書活動を通じた異年齢交流により、読書への関心を高めることができた。 【課題】 ●小中学校課 ・読書活動を通じた異年齢交流について、指定校以外の取組状況を把握することが難しい。 ●高等学校課 ・高等学校によって、読書活動を通じた異年齢交流について、取組状況に相違が見られる。 【今後の方向】 ●小中学校課 ・市町村教育委員会と連携し、現状を把握するとともに、好事例を教職員ポータルサイトで発信する。 ●高等学校課 ・読書活動を通じた異年齢交流事例を、情報発信していく。

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (3) 特別な支援が必要な子どものための取組		
①視覚障害者等への対面音訳サービスの実施		県立図書館
オーテピア高知図書館では、オーテピア高知声と点字の図書館と協力して対面音訳サービスを実施しています（対面音訳室合計6室整備）。また、市町村立図書館でも対面音訳サービスが実施できるよう支援に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・リモートと対面による音訳サービスを継続して実施している。 ・高知声と点字の図書館と協力して、対面音訳ボランティアの養成講座を実施した。 ・香美市立図書館からの依頼により、対面音訳サービスの職員研修を実施した。	【成果】 ・視覚障害者等の来館が困難な利用者にも情報提供を継続できた。	
	【課題】 ・対面音訳サービスの利用者が固定化しており、サービスを必要とする人に届くよう、さらなる周知が必要である。	
	【今後の方向】 ・高知声と点字の図書館と連携し、関係機関等へのPRを継続して行う。	
◆参考数値 ・サービス利用者数（実人数） R7年度：15人、R6年度：15人、R5年度：16人、R4年度：14人 ・対面音訳室の利用件数（延件数） R7年度：686件、R6年度：1,000件、R5年度：1,081件、R4年度：1,019件		
②視覚障害者等への録音図書やデジタル図書の提供		県立図書館
オーテピア高知声と点字の図書館が、デジタル図書のネットワーク「サピエ図書館」により、視覚障害者等への提供に取り組んでいます。 これらの録音図書等の周知と利用促進のため、市町村立図書館や関連団体へのサンプルの貸出を進めます。 また、障害者だけでなく一般の方も利用できる朗読CDの提供を進めるように高知市民図書館と協力して取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・バリアフリー資料や機器をセットにした「さくらバリアフリー文庫」を市町村立図書館等へ貸し出すことで、バリアフリー資料やサービスの周知につなげた。	【成果】 「さくらバリアフリー文庫」を利用した図書館では、自治体内の小中学校で展示を行うなどの活用を通じて、サービスへの理解が進んだ。	
	【課題】 ・特別支援学校等も含めて、さらなるサービスの周知が必要である。	
	【今後の方向】 ・高知声と点字の図書館と協力して、資料の利用促進のための広報や啓発を行う。	
◆参考数値 ・さくらバリアフリー文庫の貸出件数 R7年度：6件、R6年度：5件、R5年度：10件、R4年度：6件		
③図書館への来館が困難な子どもへの貸出サービスの充実		県立図書館
オーテピア高知図書館は、障害や病気によって来館が困難な子どもたちに本などの図書館資料の利用ができるように、病院・社会福祉施設等への団体貸出を行います。また、無償で自宅等に資料を届ける貸出サービスの充実に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・放課後デイサービス事業所等に対して、団体貸出を行った。	【成果】 ・団体貸出は継続的に利用があり、来館が困難な子どもの読書に活用されている。	
	【課題】 ・宅配貸出サービスは、成人の利用者は増えている一方で、子どもの利用はなかった。	
	【今後の方向】 ・子どもや施設のニーズ等も踏まえつつ、訪問などによるサービスの周知や利用しやすい環境整備に取り組んでいく。	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進 (4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援

生涯学習課

市町村における読書活動の取組の充実を図るため、子ども読書活動推進計画が未策定の市町村に対し、先進事例の紹介や助言等により、計画の策定を支援します。また、子ども読書活動推進計画の策定済み市町村に対しては、計画に基づく着実な推進、改定等が実施されるように支援に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・計画策定にあたり、全市町村を訪問して計画の説明を行った。（R4年度）
- ・ほか、個別に計画策定に向けた情報提供等を行った。（4市4町）
（四万十市、香南市、土佐清水市、室戸市、田野町、本山町、仁淀川町、四万十町）

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

- ・市町村の取組に有益な情報を提供できた。
- ・すべての市町村で計画が策定できた。

【課題】

- ・計画年限が終了している市町村がある。

【今後の方向】

- ・様々な機会をとおして参考情報を積極的に提供する。
- ・計画に基づく着実な推進、改定等実施のために必要な支援を行う。

◆参考数値

- ・計画の策定状況（文科省調査高知県提出分）
R7. 3時点 計画策定済市町村数 34（うち、計画年限が終了している市町村数 12）
- ※R6年度調査実績なし
R5. 3時点 計画策定済市町村数 33（うち、計画年限が終了している市町村数 13）
計画策定検討中市町村数 1
- R4. 3時点 計画策定済市町村数 33（うち、計画年限が終了している市町村数 13）
計画策定検討中市町村数 1
- ・計画リーフレットの主な配付先
各市町村教育委員会（教育長、担当、配布用含む）、各教育事務所、各学校（小・中・高・特支・大学）※私立含む、保育士・幼稚園教諭・保育教諭等、各図書館、社会教育委員、等

②「子ども読書の日」（4月23日）等の啓発

生涯学習課

「子ども読書の日」（4月23日）や「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）、「秋の読書週間」（10月27日～11月9日）、「志（こころざし）・とさ学びの日」（11月1日）に、読書の楽しさや意義、重要性について県民への啓発を実施します。また、市町村立図書館や学校等において、民間団体・読書ボランティア等と連携し、その趣旨に沿った行事や催しを実施できるように取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・「子ども読書の日」啓発ポスターを配布
- ・子どもの読書に係るボランティアに関する調査（読書ボランティア調査）を実施（令和5年度・令和8年度実施予定）。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

- ・「子ども読書の日」の啓発につながった。
- ・読書ボランティア調査により、県内の読書ボランティアの活動状況などを把握することができた。

【今後の方向】

- ・「子ども読書の日」啓発ポスター配布の際、各教育事務所等に対し、各市町村教育委員会に向けた啓発を依頼する。

Ⅱ 情報を読み取り活用する子どもを育てる

- 1 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進
 (1) 学校図書館の機能の充実
 (2) 学校における読書活動の充実

- 1 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進
 (1) 学校図書館の機能の充実

①小学校・中学校・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進

小中学校課

市町村教育委員会と連携して、各小学校・中学校・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置付け、教育活動全体において組織的、計画的に学校図書館の活用を図ることにより、自ら読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養います。また、図書館資料や情報を活用した授業を推進することで、言語能力・情報活用能力の育成に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・言語能力・情報活用能力育成プラン指定校において、学校図書館を活用した言語能力及び情報活用能力を育成する授業の実践を行い、取組や研究成果を公開授業や各校のホームページで発信した。また公開授業を基にした実践事例を作成し、教職員ポータルサイトに掲載した。さらに情報活用能力年間指導計画を作成し、授業改善を行った。
- ・推進校の加配教員の活用や事業計画、事業内容に対して進捗確認を行い、指導・助言を行った。
- ・言語能力・情報活用能力育成プラン研究協議会を開催し、講師による講話・演習を行った。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

- ・指定校において、学校図書館を活用し、言語能力及び情報活用能力を育成するための授業の実践研究が進んだ。
- ・言語能力・情報活用能力育成プラン推進校連絡会を行い、指定校の取組を共有するとともに、各教育事務所等と各指定校の学校支援について情報共有をしながら、計画的に指導・助言ができた。

【課題】

- ・指定校以外の学校で学校図書館を活用した言語能力及び情報活用能力を育成する授業の実践が進んでいない。

【今後の方向】

- ・探究的な学びを推進する授業について学校図書館を活用した事例を収集し、教職員ポータルサイト等で周知する。

◆参考数値

- ・R7年度推進校4校…香美市立香長小学校、土佐市立蓮池小学校、宿毛市立宿毛小学校、高知市立はりまや橋小学校
- ・R6年度指定校5校…香美市立山田小学校、南国市立十市小学校、いの町立伊野南小学校、宿毛市立宿毛小学校、高知市立城東中学校
- ・R5年度指定校5校…香美市立山田小学校、南国市立十市小学校、いの町立伊野南小学校、宿毛市立宿毛小学校、高知市立城東中学校
- ・R4年度指定校5校…香美市立山田小学校、南国市立十市小学校、いの町立伊野南小学校、宿毛市立宿毛小学校、高知市立城東中学校

②学校図書館図書標準達成校数の拡大

小中学校課

学校規模や児童生徒、教職員等の要望に応じた蔵書の整備を進めるため、市町村に対して、学校図書館資料の計画的な整備（廃棄を含む）を働きかけます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・「学校図書館の現状に関する調査」を実施していないため、把握できていない。（R7実施 R8公表予定）
- ・「学校図書館等の整備充実について」「第6次学校図書館整備5か年計画の策定について」の通知文等を市町村教育委員会に送付し、充実を依頼した。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

【課題】

- ・学校図書館資料の計画的な整備に関する現状が把握できていない。

【今後の方向】

- ・令和7年度の「学校図書館の現状に関する調査」を確認し現状を把握するとともに、引き続き、学校図書館等の整備充実について依頼していく。

◆参考数値

- ・学校図書館図書標準率が75%以下の学校（R2年度）
11校

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進 (1) 学校図書館の機能の充実

③高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進

高等学校課

各校の教育計画に「読書活動の推進」に関する項目を取り入れるなど、読書活動の重要性について学校全体での共有化を推進するとともに、各種調査結果等を活用しながら、読書活動推進に向けた組織的な活動がより一層活性化されるよう取り組みます。

また、各教科・科目、総合的な探究の時間及び特別活動等、学校の教育活動全体において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に活用し、オーテピア高知図書館や市町村立図書館等との連携を通して多様な指導の展開が図られるよう、各校の学校図書館担当者等を対象とした研修会を開催するなど、必要な支援に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」において、学校図書館を探究的な学びの場として積極的・計画的に活用するための講義等を行った。
- ・県立図書館実施「図書館サービス研修」に協力し、高知国際中学校・高等学校図書館での公開授業や研究協議・講演の企画、周知に携わった。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

【成果】

- ・研究協議会を通して好事例等を共有することにより、図書館の組織的、計画的な活用につながった。

【課題】

- ・各校の教科・科目、また総合的な探究の時間等への取組の差が図書館の積極利用の差になっている。学校図書館側からの働きかけを強化したい。

【今後の方向】

- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」の開催及び、オーテピア高知図書館等との連携の一層の充実を図る。

④特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実

特別支援教育課

活字を一般的な状態で読むことが難しいなど、読書の際に支援を必要とする子ども（以下「特別な支援を必要とする子ども」という。）のニーズを把握し、障害の特性に応じた図書の精選を行い、蔵書の充実に努めるとともに、本などの図書館資料を貸し借りするための物流システムを利用したオーテピア高知図書館等公立図書館の積極的な活用により、さらなる読書環境の充実を図ります。また、県内全域を対象に、読書困難な人への支援を行っているオーテピア高知声と点字の図書館と連携した読書機会の提供の拡大を図ります。

また、学校図書館における書棚の高さの工夫、快適に利用するための場所や空間の確保、提示物の精選や配置の工夫、視聴覚機器や補助具等により、自主的な読書活動ができるよう読書環境の整備・充実に取り組みます。

さらに、障害等の実態に応じた、ICT 機器の活用による読書活動の充実にも取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・各学校の読書活動に関する状況調査を行い、障害特性に応じた読書環境の整備を行った。
- ・オーテピア高知図書館、地域の市町村立図書館と連携し、読み聞かせや団体貸出、出前講座、移動図書館の利用等のサービスを利用して、読書活動の充実に取り組んだ。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

【成果】

- ・移動図書館やオーテピア高知図書館の団体貸し出しなどを活用し、読書活動を充実させることができた。
- ・校外学習や修学旅行等の行事における利用、オーテピアの担当者が来校し読書活動の推進に向けた助言を聞く機会を設定するなど、障害の実態に応じた幅広い読書活動を確保している。
- ・各校に電子図書館の利用や申請方法についての情報共有を実施した。
- ・障害の実態に応じてICT機器を用いた読書活動の事例を学校間で情報共有できた。

【課題】

- ・大型絵本やICT機器の活用状況が各校で差異があり、引き続き学校間での情報共有や教材整備が必要と考えられる。

【今後の方向】

- ・ICT教材を含め、多様な教材の活用事例を各校で共有できるように情報共有の場を設定する。
- ・図書室の工夫や児童生徒が使いやすい配置、情報掲示の充実など環境面の改善を推進し、利用促進を図る。

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進 (2) 学校における読書活動の充実

①図書や情報を活用した探究的な学びの推進

小中学校課

県教育委員会が作成した「きつとある キミの心に ひびく本」に掲載された図書や、情報を活用した実践事例等を「高知家まなびばこ 教職員ポータルサイト 小中学校課」に掲載し普及することで、学校図書館を活用した探究的な学びの推進に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・言語能力・情報活用能力育成プラン推進校において、読書貯金アプリケーションを用いた読書活動を行い、その中で「きつとある キミの心に ひびく 本」を活用した。
- ・言語能力・情報活用能力育成プラン研究協議会を開催し、講師による講話・演習を行った。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・推進校において、学校図書館を活用した言語能力及び情報活用能力を育成する授業の実践研究が進んだ。
- 【課題】
- ・探究的な学びの推進のための端末活用は進んできたが、学校図書館を活用した事例が少ない。
- 【今後の方向】
- ・学校図書館を活用した言語能力及び情報活用能力を育成する授業について令和の学校教育を考える推進会議等で理解を深める。

②生徒の自主的な読書活動の推進

高等学校課

朝の読書活動等の一斉読書活動や学級文庫の設置を一層推進するとともに、学校図書館システムを活用したブックリストの作成や図書館便りの発行、各校の学校図書館資料及びオーテピア高知図書館からの借受け図書の貸出等を通して、生徒の主体的、探究的な学習や読書活動につながるよう取組を推進します。

また、図書委員会活動やボランティア活動等の生徒の自主的な取組が、より一層創意工夫したものとなるように支援に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・朝の一斉読書活動については、一定数の高等学校が実施している。
- ・公共図書館や保育園、幼稚園において、生徒が読み聞かせのボランティアを行った。
- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」において、各校の学校図書館の展示や工夫を共有するとともに、オーテピア高知図書館と学校図書館との連携サービスについて周知を図った。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を通して、公立図書館との連携について情報を共有し、生徒の主体的、探究的な学習につなげることができた。オーテピア高知図書館からの借受け図書の点数が増加傾向にある。
- 【課題】
- ・朝の一斉読書活動の実施校が、減少傾向にあり、今後の在り方について、検討が必要である。
- 【今後の方向】
- ・上記の研究協議会の一層の充実を図るとともに、電子図書館の利用を推進し、生徒の主体的、探究的な学習につなげる。

③特別支援学校における読書活動の充実

特別支援教育課

特別な支援を必要とする子どもが本に親しむことができるように、教職員やボランティア等による読み聞かせ、布のパネルを舞台に物語を表現するパネルシアター、人形劇の一種であるペープサート、エプロンを背景に物語を進めるエプロンシアター等、様々な方法を取り入れ、幼児児童生徒一人一人の実態に応じた読書活動や読書指導を一層推進します。

また、すべての特別支援学校で読書週間の設定や児童生徒会活動による読書活動を促すとともに、図書便りを定期的に発行して、情報を発信し、学校と家庭が連携して読書活動への関心を高めるように働きかけに取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・教員やボランティアによる読み聞かせを各校や寄宿舎で実施し、生徒同士では本を紹介し合う場面を学習の中に取り入れた。
- ・また様々な実態の子どもが読書を楽しめるように、ペープサートやパネルシアター、大型絵本や大型モニターでの提示など、読書活動の環境整備に取り組んだ。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・公立図書館やボランティアとも連携をとりながら、さまざまな障害の実態に応じた環境整備に取り組むことができた。
- 【課題】
- ・図書便りによる定期的な情報発信が十分ではないため、学校間で情報共有を行い、読書活動への関心を高められるようにすることが必要である。
- 【今後の方向】
- ・学習活動の中で図書館の使い方を学び、図書や新聞、広報誌などの紙媒体に触れる機会を設定しながら、実態に応じた活動を計画的に取り組めるよう、共有や周知を行う。

1 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進 (2) 学校における読書活動の充実		
④ 1人1台タブレット端末からの高知県電子図書館の利用		(教育政策課・) 高等学校課・生涯学習課・県立図書館
GIGA スクール構想と連動して、県立学校等で高知県電子図書館のアカウントを配付し、1人1台タブレット端末での読書環境を提供します。 また、県内の学校への周知を図り、子どもたちがどこに住んでいても充実した読書活動が行えるように取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
●高等学校課 ・高知県電子図書館の利用により、探究学習等の充実を図ることができた。 ●生涯学習課 ・各教育事務所の指導事務担当者会を活用して、各市町村へ高知県電子図書館の活用と本計画の周知を行った。また、本計画のリーフレットを県内の小学校、中学校全校に配付した。 ・小中学校長会で電子書籍のPRを行った。 ●県立図書館 ・閲覧型電子書籍サービス「KinoDen」を導入した(R5)。 ・高知県電子図書館で、児童・ティーンズ向け図書の「読み放題パック」を導入した(R7)。 ・校長会等でサービス説明を行った。 ・学校訪問等で、電子書籍の活用について説明や提案を行った。	【成果】 ●高等学校課 ・1人1台タブレット端末から、高知県電子図書館の総合的な探究の時間等における活用が増加した。 ●生涯学習課 ・高知県電子図書館に登録する市町村が増えた。 ●県立図書館 ・アカウント登録が進んだことで、利用回数も連動して増加した。 ・利用方法やコンテンツの選択肢が増えたことで、電子書籍の活用の幅を広げることができた。 【課題】 ●高等学校課 ・高知県電子図書館のアカウント取得における手続、電子図書の魅力や効果的な活用方法等、より一層の周知を図る必要がある。 ●県立図書館 ・一括登録が未登録の自治体を中心に、引き続きサービスの紹介に取り組む必要がある。 【今後の方向】 ●高等学校課 ・高知県電子図書館の利用率の向上を図る。 ●生涯学習課 ・高知県電子図書館の活用方法について、市町村教育委員会に向けて情報発信する。 ●県立図書館 ・サービスの周知と電子書籍の充実に重点的に取り組む。	
◆参考数値		
・高知県電子図書館の登録状況		
市町村立学校の教職員や児童・生徒が一括登録している市町村数		
R7年度：10、R6年度：8、R5年度：8、R4年度：1		

Ⅲ 子どもの読書活動を支える

- 1 子どもの読書活動を推進する人材の育成
- 2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成

①子どもが興味・関心を持てる計画的な環境づくり

幼保支援課

保育所・幼稚園等において子どもが手に取りやすい絵本の配置、季節に応じた展示の仕方、子どもの発達段階に配慮した絵本コーナーなどの環境構成や、興味・関心に応じた絵本の選定、お便り等を活用した保護者への読書活動の啓発等を年間指導計画に位置付け取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

・親育ち支援保育者研修等で子どもの発達段階に配慮した絵本コーナー等の環境構成の工夫を周知したり、読書活動に関する園内研修や保護者への啓発等の取組の周知・確認を行った。

【成果】

・園の絵本コーナーの環境構成の工夫事例を写真で紹介することで、具体的なイメージをもつことにつながった。

【課題】

・年間指導計画に位置付けされていない園への周知が必要である。

【今後の方向】

・各園の好事例の紹介や園内研修等の実施の啓発を行う。

②保育者への園内研修等の充実

幼保支援課

保育所・幼稚園等の保育者に対し、読書活動の意義や重要性、発達段階に応じた絵本の選定、親子読書への取組等について、指導計画等に位置付けた指導ができるよう取り組みます。また、保護者や市町村立図書館等の職員、読書ボランティア等との連携について、園内研修等の機会を捉え啓発に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

・親育ち支援の保護者講話、保育者講話において、親子で楽しめる読書活動・読み聞かせの大切さを伝えた。

【成果】

・6割以上の園が読書活動として保護者やボランティア等との連携を行っている。
・親育ち支援の保護者講話で、親育ち支援アドバイザーが読み聞かせを行ったり、読書活動の大切さを伝えたりすることで保護者の読書活動への意識の向上につながった。

【課題】

・未実施の園には、保護者や図書館等の職員、ボランティア等と連携することの意義や大切さについて調査結果を配付する際に伝えていく必要がある。

【今後の方向】

・親育ち支援の保護者研修、保育者研修において保育者、保護者へ読書活動の重要性について啓発していくとともに、園には、読書活動について学び場の設定の工夫や、保護者等との連携の大切さについても知らせていく。

◆参考数値

・読書活動に関する状況調査

「保護者や図書館職員、ボランティアなどと連携した読書活動を行ったか」

R7年度：64.5%、R6年度：65.9%、R5年度：67.0%、R4年度：63.2%

その中で、「連携の対象が保護者」

R7年度：32.6%、R6年度：29.9%、R5年度：32.8%、R4年度：33.3%

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成		
③保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施		幼保支援課
保育所・幼稚園等における読書活動についての調査を実施し、その結果を踏まえ、読書活動のさらなる充実のための啓発に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・読書活動に関する状況調査を行い、現状の把握、結果の周知を行った。また、結果とともに読書活動の充実につながる情報を園、市町村に紹介するなど、充実した読書活動への啓発につなげた。	【成果】 ・全園の取組状況を把握することができた。本に親しむ環境づくりについて、園や市町村に紹介するなど、充実した読書活動への啓発につなげた。	
	【課題】 ・読書に関して、学ぶ意義や研修の在り方について知らせていく必要がある。	
	【今後の方向】 ・園の取組の工夫などの情報を園や市町村に発信し、園における読書活動のさらなる実践につなげていく。	
④推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」の活用		幼保支援課
保護者への絵本紹介や読書に関する園内研修等様々な場で、子どもが初めて出会う本を選びたい時などに参考となるよう、県教育委員会が作成した推薦図書リスト「絵本おはなし・宝箱」を活用し、読書活動の必要性について保護者への啓発に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・「絵本 おはなし・宝箱」の活用状況を把握し、活用ができていない園には理由の確認とともに、活用を促してきた。	【成果】 ・9割近くの園が「絵本 おはなし・宝箱」を活用している。絵本購入のための選書や読み聞かせのための絵本選びでの活用が多い。	
	【課題】 ・未活用園からは「機会がなかった」「別のツールを使った」との回答が多かった。さらに園の状況を把握していく必要がある。	
	【今後の方向】 ・他園の活用方法を紹介し、取組の推進を図る。	
◆参考数値		
・読書活動に関する状況調査 「絵本お話宝箱を活用したか」 R7年度：90.0%、R6年度：87.5%、R5年度：88.7%、R4年度：87.0%		

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成	
⑤読書ボランティアの養成とスキル向上の機会の提供	生涯学習課
地域や保育所・幼稚園、学校等で読み聞かせ等を行う読書ボランティアの養成を行います。講座のプログラムを、参加者の要望に応じて「入門講座」や「スキルアップ講座」等に分けるなど、未経験者が参入しやすく、経験者はさらなる技術の向上を目指すことができるように企画します。また、今後子どもの読書活動を担う人材を育成していくためにも、高校生や大学生を対象とした研修にも取り組みます。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
- 読書ボランティア養成講座において、参加者をはじめとした関係者同士の交流会を実施し、事例紹介や情報交換を行った。 - 講座に参加しやすいよう、内容を改善した。託児サービスの利用促進（R4年度から予算化） - 修了証の発行（R4年度～） - 修了者には「学び場人材バンク※」への登録を促した。 ※学び場人材バンク 放課後に子どもたちが安全・安心に過ごせる「生活の場」や「体験活動の場」である「放課後子ども教室」や「放課後児童クラブ」で子どもたちの成長を支える活動に協力いただける方々を募集し、市町村教育委員会や各活動場所等に人材（講師）を紹介をするもの。運営は、県からNPO法人高知県生涯学習支援センターに委託。 ※読書ボランティア養成講座 委託先：認定NPO法人高知こどもの図書館	【成果】 - 修了証の発行により、受講者のモチベーションアップにつながった。 - 交流会を実施することで、参加者の今後の活動に向けた情報提供を行うことができた。 【課題】 - 講座を修了したものの活動の場が見つからない、活動の仕方が分からない、など、市町村等からの需要とのミスマッチが起きている。 【今後の方向】 - 引き続き読書ボランティアの養成を続けるとともに、実際の活動につながるよう、ボランティア同士の情報交換を促進できる交流会等を実施する。 - 読書ボランティア調査の結果を基に、活動者と活動場所とのマッチングを行う。
◆参考数値 修了者 R7年度：19名（うち学び場人材バンクへの登録者 3名） R6年度：24名（うち学び場人材バンクへの登録者 4名） R5年度：10名（うち学び場人材バンクへの登録者 1名） R4年度：7名（うち学び場人材バンクへの登録者 2名）	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成		
⑥推薦図書リスト（「絵本 おはなし・宝箱」）の配付と活用の推進		生涯学習課
図書館・保育所・幼稚園等へ推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」を配付し、保育者等が読み聞かせを行う時の選書の参考とするほか、掲載している本をすぐ利用できるように、オーテピア高知図書館や書店等と連携し、効果的な活用ができるように取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・「絵本 おはなし・宝箱」を増刷し市町村や関係者に配付した。【再掲】 ・「絵本 おはなし・宝箱」から選定した絵本を乳幼児健診等で配布できるよう、市町村の希望に応じて送付した。（「本との出会い事業」R4年度～）【再掲】 ・教育センター主催の保育技術専門講座で、保育関係者に「絵本おはなし・宝箱」を配布し、本計画の概要説明やリストの説明を行った。	【成果】 ・関係者が集まる講座で配布、説明することで、読書活動の推進とともにリストの活用について伝えることができた。 【課題】 【今後の方向】 ・図書館担当者等と協議し、リストの効果的な活用方法について検討する。	
⑦市町村立図書館の職員・ボランティア・協力者等に対する研修会の実施		県立図書館
市町村立図書館の職員等に対して、研修会を実施し、人材の育成を図っています。また、継続して音訳ボランティアの養成を進めるようにオーテピア高知声と点字の図書館と協力して取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・市町村立図書館等の職員のスキルアップを目的とした図書館サービス研修・ブロック別研修会（県図書館協会事業）・どこでも研修等を実施した。また、研修動画を作成し、YouTubeで配信している。 ・市町村図書館の求めに応じて講師を派遣する「どこでも研修」で、対面音訳に関する研修を実施した。 ・小規模図書館・図書館未設置市町村のための交流会を開催した。	【成果】 ・各研修ともに多くの参加があり、受講者の満足度も高く、職員のスキル向上に役立った。 ・各市町村の図書館整備の状況やニーズ、社会情勢等を考慮した研修を実施することができた。 【課題】 ・各市町村における図書館の整備状況に応じた、段階別の取組を進める必要がある。 【今後の方向】 ・引き続き研修を実施し、継続的に人材育成を進める。	
◆参考数値		
・図書館サービス研修の実施状況 R7年度：6回、R6年度：5回、R5年度：5回、R4年度：5回 ・ブロック別研修会の実施状況 R7年度：6回、R6年度：6回、R5年度：5回、R4年度：6回 ・YouTubeで配信中の研修動画 R4年度～：35本		

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成	
⑧訪問支援・研修	県立図書館
市町村立図書館等を訪問し、運営やサービスの充実にに向けた相談等を引き続き行います。また、市町村立図書館等の職員が市町村立の学校図書館にアドバイスができるように、知識・スキルの向上を目指し、県立図書館職員等による市町村立図書館等の職員への研修に取り組みます。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
・県内を3ブロックに分けて、担当司書を配置し、各館の運営状況や課題の聞き取り、サービスや取組についての助言などを行った。 ・各図書館等の希望やニーズに応じて講師を派遣する「どこでも研修」を実施した。	【成果】 ・個別に訪問・情報提供を行ったことにより、新たなサービスの開始や啓発展示の実施など、取組の強化・創出につながった。
	【課題】 ・ノウハウ等の共有・助言など、各市町村の状況等に応じた支援を行う必要がある。
	【今後の方向】 ・引き続き、訪問や研修を実施し、市町村立図書館等を支援する。
◆参考数値	
・巡回訪問の実施状況 R7年度：延べ69回、R6年度：延べ83回、R5年度：延べ52回、R4年度：延べ92回	
・依頼による訪問支援等の実施状況 R7年度：延べ6回、R6年度：延べ10回、R5年度：延べ19回、R4年度：延べ14回	
・どこでも・いつでも研修の実施状況 R7年度：6回、R6年度：4回、R5年度：5回、R4年度：3回	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成		
⑨文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発		小中学校課・高等学校課・特別支援教育課 （・生涯学習課）
県内の特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体及び個人を表彰する文部科学大臣表彰制度を活用し、取組内容を広く県民の方々に紹介することにより、子どもの読書活動についての関心と理解を深めます。また、文部科学大臣表彰受賞報告会を行い、ホームページや各研修会、研究大会等で紹介することで、関係者の取組の意欲をさらに高め、活動の一層の充実が図られるように取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
●高等学校課 ・研究協議会等において、特色ある優れた実践を行っている学校図書館の情報やノウハウを共有した。 ●特別支援教育課 ・各県立特別支援学校の読書活動の取組状況について調査を行った。	【成果】 ●小中学校課 ・受賞校では、学校図書館を活用した読書活動の推進や探究的な学びの推進等、実践研究が進んでいる。 ●高等学校課 ・特色ある実践を行っている学校図書館の情報やノウハウを共有する機会を設けることができた。 ●特別支援教育課 ・調査を行うことで各学校の取組や読書活動を把握することができ、障害種や実態に応じた取組により、情報を得ることができた。 【課題】 ●小中学校課 ・特色ある優れた実践を行っている学校の情報が少なく、また実践を県内に発信する機会も少ない。 ●高等学校課 ・特色ある優れた実践を行っている学校を見出していく方法について課題が残っている。 ●特別支援教育課 ・各校が行っている実践を発信したり、共有したりする機会が少ない。 【今後の方向】 ●小中学校課 ・各教育事務所や市町村教育委員会等と連携し、特色ある優れた実践を行っている学校の情報収集を行うとともに、紹介する場の設定を検討する。 ●高等学校課 ・特色ある優れた実践が顕在化するように、各校の取組についての情報収集及び情報共有の仕方について検討する。 ●特別支援教育課 ・各学校の特色のある取組の情報収集及び情報共有の仕方を検討する。 ●生涯学習課 ・引き続き、「子ども読書の情報館」（文部科学省）のホームページに事例を掲載するとともに、『夢のかけ橋』（高知県教育だより）等で活動を紹介する。	
	◆参考 ・表彰校・館・団体 R8年度（R7年度推薦） 香美市立山田小学校、森尾 靖子氏（高知市） R7年度（R6年度推薦） 宿毛市立宿毛小学校、高知国際高等学校、高知学園短期大学保育サークル R6年度（R5年度推薦） 香美市立大宮小学校、高知高等学校、土佐市立市民図書館、かがみ読書の会（香南市） R5年度（R4年度推薦） いの町立伊野南小学校、高知県立盲学校、橘原町立図書館、おはなし玉手箱（黒潮町）	
⑩読み聞かせ研修会や講座の実施		県立図書館
保護者や市町村立図書館職員、読書ボランティアなどを対象とした読み聞かせ研修会や読書に関する講習会の実施に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・市町村立図書館、公民館図書館等の職員を対象に図書館サービス研修（初任者編）【児童サービス編】を実施した。 ・市町村立図書館の要望に応じて、児童サービスに関する「どこでも研修」を実施した。 ・子どもと子どもの本に関わる大人を対象にした講演会「こどもの本の講演会」を開催した。 （R5年度）「こどもにとっての冒険物語」 （R6年度）「月刊誌『たくさんのふしぎ』編集者が語る、こどもたちに手渡すノンフィクション絵本 （R7年度）「絵本をつくるということ」	【成果】 ・研修受講者の多くから、業務に活用できる内容であると評価を得ており、市町村立図書館等職員の人材育成につながった。 ・こどもの本の講演会は参加者の学びにつながっている。 【課題】 ・市町村立図書館職員やボランティアを育成するため、研修を継続していく必要がある。 【今後の方向】 ・図書館サービス研修、こどもの本の講演会を引き続き実施する。	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 子どもの読書活動を推進する人材の育成

①教職員等の学校図書館活用力の向上や学校教育に役立つ情報の提供

高等学校課・県立図書館・教育センター

オーテピア高知図書館や市町村立図書館、学校図書館協議会、大学等と連携した研修会の実施を通して、学校図書館担当者等の資質向上に取り組みます。

オーテピア高知図書館では、学校図書館へのレファレンス回答支援や教職員等の学校図書館活用に関する相談に応じるとともに、資料選定に役立つ情報・資料の提供を行います。また、教職員に対し、学校図書館の蔵書だけでは不足する学校教育に役立つ図書・雑誌の提供を行います。

県教育センターでは、乳幼児期の保育者等を対象とした幼保研修において、絵本の果たす役割や読み聞かせの技術等について講義・演習を実施するとともに、若年教員研修において、学校図書館の機能を周知し、活用を推進します。また、学校教育の参考となる図書や雑誌を配架している教科研究センターでの、情報提供にも取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

- 高等学校課
 - ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を県立図書館と連携して実施し、学校図書館の組織的な活用について必要な情報の共有化を図った。併せて、主任実習助手（学校司書）による会計年度任用職員（図書館事務補助）への学校訪問指導を行った。
- 教育センター
 - ・幼保研修では、保育技術専門講座ⅢにおいてR4からR7年度の間、保育者の専門性を高め、子どもの読書活動推進を図るための研修として実施
 - 【研修内容】
 - ①「高知県の読書活動の現状等」
講師：高知県教育委員会事務局生涯学習課
 - ②「絵本の果たす役割」講師：（R4年度：白梅学園大学 仲本 美央 教授、R5年度：高知学園短期大学 二宮 久美 教授、R6年度：弘田 恵子 絵本専門士、R7年度：横田 潤子 絵本専門士）
 - 【受講者】
R4：105名 R5：141名 R6：157名 R7：132名
 - ・若年教員研修では「若年教員研修のしおり」（配付冊子）に「読書活動と学校図書館」という項目で、読書活動の大切さや学校図書館の機能と利活用についての内容を掲載している。また、初任者が所属校で図書館を活用できるように「OJTプログラム」にも「学校図書館の活用方法及び読書指導」の研修項目を提案することで、各学校で学校図書館を利用した授業を進められるようにしている。さらに、「OJTハンドブック」（ダウンロード冊子）においては、「教育施設の利用」の項目にて公立図書館を含む県内の社会教育施設の一覧を示し、学校教育への利活用を促している。
 - ・学校教育に関する先進的な取組や実践例が掲載されている図書や雑誌を県内4か所の教科研究センターに開架し、ホームページで毎月の特集内容を情報提供している。
- 県立図書館
 - ・高等学校課が実施する司書教諭や学校司書を対象とした研修会において、サービス説明を行った。
 - ・高等学校を訪問し、学校司書等の教職員に対して、サービス説明を行った。
 - ・学校教職員や市町村立図書館等職員を対象に、県立学校を会場として、公共図書館と学校の連携をテーマとした研修を実施した。
 - ・教員の業務に役立つ資料を積極的に収集し、提供した。

【成果】

- 高等学校課
 - ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を県立図書館と連携して実施し、学校図書館の組織的な活用について必要な情報を共有できた。併せて、主任実習助手（学校司書）による学校訪問指導を通して、学校司書の専門力向上につなげることができた。
- 教育センター
 - ・本県の現状や取組を知ることで、子どもの成長や発達に繋がる絵本を読むことの大切さに気付くとともに、講師の講話から絵本の役割や絵本を通して育まれる資質・能力等について学び、実践に生かせる気付きを得ることができた。
 - ・初任者研修配置校研修において、「若年教員研修のしおり」を用いて学校図書館の機能や活用の意義等についての研修を実施した学校もあり、総合的な学習の時間や、国語、社会等の教科指導において、学校図書館や公立図書館の機能を活用した授業の実施につながった。
 - ・教科研究センター利用者の約8%が図書や雑誌を利用した。
- 県立図書館
 - ・サービス説明や高等学校支援用図書の充実により、県立学校への貸出点数が前年度比で2倍以上に増加するなど、図書館活用が進んできている。

【課題】

- 高等学校課
 - ・学校図書館におけるタブレット端末の活用を促進するための、学校図書館におけるICT機器活用事例を共有することができなかった。
- 教育センター
 - ・保育者は日頃から絵本の読み聞かせなどを行いながら絵本に親しみをもつ子どもの育成に取り組んでいるが、読み聞かせや絵本に親しむことを通じてどのような資質・能力が育まれているのかを理解し実践することには課題を感じる。
 - ・学校図書館を利用した授業や教育活動等についての周知が十分とは言えない。
 - ・図書や雑誌の利用者の割合は横ばいで推移しており、利用者への一層の周知が必要である。
- 県立図書館
 - ・授業や業務での図書館活用が進むよう、学校司書以外の教職員に対してもアプローチが必要である。

【今後の方向】

- 高等学校課
 - ・ICTの導入により、学校図書館におけるICTの活用についての研修会実施の要望が増加している。オンライン研修での実施を検討していく。
- 教育センター
 - ・幼保研修では、保育技術専門講座Ⅲで実施予定。今後も、「何のための読み聞かせなのか」、「読み聞かせによって育まれる資質・能力は何か」など、理論と実践が結びつくような講義内容を講師に依頼していく。また、子ども自ら読んでみたい、読んでもらいたいと絵本に興味・関心がもてるような読書環境づくりについても提案していく。
 - ・若年教員研修では「若年教員研修のしおり」（配付冊子）に「読書活動と学校図書館」という項目で、読書活動の大切さや学校図書館の機能と利活用についての内容を掲載するとともに、初任者が所属校で図書館を活用できるように「OJTプログラム」にも「学校図書館の活用方法及び読書指導」の研修項目の提案を継続し、学校図書館活用の周知・推進を目指す。また、各教科指導において活用事例の紹介等も併せて行っていく。
 - ・教科研究センターでは、今後も学校教育の参考となる図書や雑誌を配架し、その情報提供にも努める。
- 県立図書館
 - ・授業への活用に加え、校内研修や研究部会等、教職員による業務での活用についても提案し、利用を促進していく。
 - ・校長会や教員研修等の機会を通じて、広くサービスの周知を行う。
 - ・児童図書選定支援コーナーのPRと改善を図り、研修等の機会を通じて学校図書館の資料選定に役立つ情報を継続的に提供する。

◆参考数値

- ・県立学校等の団体貸出点数
R7年度：8,456点、R6年度：3,941点、R5年度：4,786点、R4年度：4,253冊

2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進		
①コミュニティ・スクールや地域学校協働本部、教育機関等と連携した読書活動の推進		小中学校課・生涯学習課
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働本部を一体的に推進し、地域ぐるみで子どもの読書活動を推進している事例の紹介を行うなど、人とのつながりを深める読書活動の活性化に取り組みます。併せて、地域学校協働本部で「読み聞かせ」等の本や読書に親しむ活動が推進されるよう働きかけるとともに、読書ボランティア養成講座の周知や読書活動に取り組む際に役立つ情報提供に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
●小中学校課 - 学校の朝活動や授業での諸活動、学校行事への支援等、地域や保護者からの支援をいただいている中に、読書活動を推進している学校において「読み聞かせ」の活動をしている学校がある。 ●生涯学習課 - 地域学校協働活動研修会等で「地域学校協働本部実践ハンドブック」と「高知県地域学校協働活動事例集」を配布し、図書・読書活動の事例についても紹介した。	【成果】 ●小中学校課 「読み聞かせ」等の読書活動は、保護者や地域の方々と子どもたちとの良いコミュニケーションとなり、双方に良い相乗効果が得られる。 ●生涯学習課 「読み聞かせ」等の読書活動を通して、地域の方々とふれあいが子どもたちにとって学習以外での大切な学びや成長につながっている。（R7地域学校協働本部事業取組状況調査より）	
	【今後の方向】 ●小中学校課 - 引き続き、コミュニティ・スクールにおいて、地域とのつながりを深める手段の一つとして、「読み聞かせ」等の読書活動が実施されるよう取り組む。 ●生涯学習課 - 地域学校協働活動研修会等の場で、読書ボランティア養成講座等のチラシを配布し、地域で本や読書に親しむ活動が推進されるよう、子どもの読書に関する情報提供を行う。	

横断的取組	
1 オーテピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 （１）市町村立図書館や学校図書館への支援	

1 オーテピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 （１）市町村立図書館や学校図書館への支援

①移動図書館や訪問等を通じた公立図書館未設置自治体に対する読書機会の提供や ニーズ喚起	生涯学習課・ 県立図書館
--	-----------------

子どもが住む場所に関わらず、幅広い読書ができるよう、県立図書館の移動図書館等による支援を行います。また、生涯学習課と県立図書館が連携し、市町村立図書館等への訪問等を通して、情報の提供や読書環境の整備に関するニーズ喚起に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
●生涯学習課 - 県立図書館からの情報提供を参考に、市町村における読書環境の整備に関するニーズ喚起のため、自治体職員図書館担当者研修を実施した。 - 地域の実情に応じた支援を行うため、県立図書館からの情報提供を参考に図書館振興アドバイザーを派遣した。 - 市町村の実態を把握するため、県立図書館支援協力担当と定期的に情報交換の場を設けるなどして、市町村立図書館等の状況について情報共有を行った。 ●県立図書館 - 図書館の整備が十分ではない市町村における読書を促進するため、公民館図書室や学校図書館等に対して、移動図書館による図書の配本・交換を実施している。	【成果】 ●生涯学習課 - 研修の実施及びアドバイザーの派遣により、市町村の具体的な取組の検討につなげることができた。 ●県立図書館 - 特に、図書館未設置町村等における読書機会の維持に寄与している。 【課題】 ●県立図書館 - 各市町村の図書館整備状況等も考慮しながら、移動図書館によるサービスの重点を図書館未設置町村へ移していく必要がある。 【今後の方向】 ●生涯学習課 - 引き続き県立図書館と情報共有を行い、市町村に対して実情に応じた取組ができるよう情報提供を行う。 - 第四次計画の実施状況を踏まえ、引き続き研修事業を中心に実施する。 ●県立図書館 - 移動図書館について、図書館未設置町村への重点的な巡回へ移行する。

◆参考数値

・移動図書館貸出点数

R7年度：43,304点、R6年度：54,765点、R5年度：57,581点、R4年度：57,481点

②市町村立図書館におけるティーンズ・サービス実施のための支援	（生涯学習課・）県立図書館
--------------------------------	---------------

市町村立図書館で10代の若者を対象としたティーンズ・サービスが実施できるようにブックリストの提供や研修の実施に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
●県立図書館 - ティーンズ世代の関心に沿ったテーマのほか、高等学校や相談機関との連携展示で紹介された資料等のブックリストやパスファインダーを作成・提供した。 - YouTubeに掲載している研修動画の一環として、YA（ティーンズ）サービスを扱った動画を配信している。	【成果】 ●県立図書館 - 作成したブックリスト等をオーテピアのウェブサイトへ掲載し、SNSでも発信することで、対象世代に情報を提供することができた。 【課題】 ●県立図書館 - ティーンズ・サービスを行っている市町村立図書館が少ない。 【今後の方向】 ●県立図書館 - 訪問等を通じて情報提供を行うとともに、市町村立図書館のニーズを見極めながら対応する。

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 オートピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 (1) 市町村立図書館や学校図書館への支援

③探究的な学習や語学学習等に活用できる電子書籍の充実

県立図書館

探究的な学習や英語等の語学学習に活用できる資料を充実します。また、高知県電子図書館で利用できる電子書籍が、不登校の児童生徒を含む来館困難者や文字情報が苦手な方にとっても、利用しやすく読書の幅を広げる可能性があることから、さらなる収集・提供に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・市町村立学校の児童・生徒・教職員の高知県電子図書館のアカウント登録を進めた。
- ・調べ学習や語学学習に役立つ電子書籍を積極的に収集・提供した。
- ・閲覧型電子書籍サービス「KinoDen」を導入した（R5）。
- ・「高知県電子図書館」において、アクセス数無制限の「読み放題パック」（児童・ティーンズ向け）を導入した（R7）。
- ・高等学校探究科の生徒の学習成果物を高知県電子図書館に掲載した。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

- ・アカウント登録が進んだことで、利用回数も連動して増加した。
- ・朝読や調べ学習など、電子書籍の活用の幅を広げることができた。

【課題】

- ・市町村立学校へのサービスの周知・普及を進めていく必要がある。

【今後の方向】

- ・サービスの周知と電子書籍の充実に重点的に取り組む。

◆参考数値

- ・電子書籍利用可能タイトル数
R7年度：13,367点、R6年度：12,371点、R5年度：11,279点、R4年度：6,661点
- ・電子図書館の閲覧回数（電子雑誌を含む）
R7年度：53,741回、R6年度：52,896回、R5年度：71,955回、R4年度：28,834回
- ・学習成果物の掲載数
R7年度：4校172点、R6年度：5校185点、R5年度：3校141点

④レファレンス・サービスの実施・相互協力

（生涯学習課・）県立図書館

学校図書館の蔵書の充実を促すとともに、市町村立図書館等から地域の学校等へ団体貸出ができるよう、市町村立図書館自身の蔵書の充実も促します。また、市町村立図書館等の所蔵資料では解決が難しいレファレンスへの協力や助言による支援を進めるように取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- 県立図書館
- ・市町村立図書館等が、利用者や学校からのレファレンスの依頼に自館の資料で十分に対応できない場合など、「協力レファレンス」として支援するとともに、求めに応じて資料を提供した。

C 第四次の成果・課題

A 今後の方向

【成果】

●県立図書館

- ・依頼があった市町村に対して、レファレンス・サービスの支援ができた。

【課題】

●県立図書館

- ・レファレンス・サービスを十分に実施できている市町村立図書館が少なく、利用者のニーズについて喚起できていない。

【今後の方向】

●県立図書館

- ・引き続きレファレンスへの支援に取り組むとともに、地域課題に関連した図書セットの貸出・展示等、市町村立図書館が情報提供機関として住民に認知してもらえる環境づくりの支援を進める。

◆参考数値

- ・協力レファレンス受付件数
R7年度：196件、R6年度：119件、R5年度：114件、R4年度：140件

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 オーテピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 (1) 市町村立図書館や学校図書館への支援		
⑤図書館利用に障害のある方への図書館資料の提供		県立図書館
視覚・聴覚障害など文字情報や音声・映像情報の利用がそのままでは困難な方へのサービスとして、大活字本、LLブック、朗読CD、音声ガイド・字幕付きDVD、触る絵本、手話付き絵本、布絵本等の積極的な収集・提供を進めるように取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・大活字本など、一般の方も利用できる資料を中心に、積極的に収集した。 ・布絵本の制作を春野高校に依頼し、布絵本の充実に取り組んだ。 ・バリアフリー関連のイベントにおいて出前図書館を実施し、バリアフリー資料や機器の展示、資料の貸出等を行った。 ・市町村図書館等の職員向けにバリアフリーサービスに関する研修を実施した。	【成果】 ・出前図書館を行うことで、当事者だけでなく支援者や家族等にも、バリアフリー資料や機器について知ってもらうことができた。 【課題】 ・障害の特性等に応じた多様な資料があることが十分に知られておらず、さらなるPRが必要である。 【今後の方向】 ・バリアフリー資料の積極的な収集・提供と、出前図書館等の活用により資料を必要とする人に届くPRに積極的に取り組む。	
◆参考数値 ・受入点数（R4年度～R7年度・オーテピア高知図書館） 大活字本913点、LLブック47点、布絵本39点 所蔵点数（R7年度末現在） 大活字本6,911点、LLブック120点、布絵本117点		
⑥市町村立図書館や県立学校等へのまとめ貸し		県立図書館
市町村立図書館等が当該の市町村立学校に図書を貸し出す際に、自館の蔵書では不足する本を県立図書館から市町村立図書館等に貸出します。また、県立学校へ、要望するテーマに応じた資料の一括貸出等に取り組みます。		
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向	
・協力貸出の一環として、市町村立学校への提供を目的とした貸出依頼に対応している。 ・単元や学習内容などの特定のテーマに関する資料について貸出依頼があった場合、「協力レファレンス」として関連資料を調査したうえで、資料を提供している。 ・前年度から引き続き、多文化サービスの拡大・創出に資する資料や、県立学校との連携・協力用として、県の重点施策である「デジタル化」「グリーン化」「グローバル化」の各分野の学習に役立つ資料を重点的に収集して図書セットを作成し、提供を行った。	【成果】 ・協力貸出は増加傾向にあり、学校等の団体利用を含め、市町村立図書館が応えきれない利用ニーズをカバーすることができている。 ・県立学校等への団体貸出も年々増加しており、図書館活用への理解が徐々に広まっている。 【課題】 ・作成した図書セットの利用をさらに促進する必要がある。 ・学校の単元学習は時期が重なるため、希望する資料が提供できない場合がある。 【今後の方向】 ・授業での図書セットの活用方法など、具体的な提案も含めて説明を行い、利用を促進していく。 ・学習指導要領や教科書の改訂等の状況も踏まえながら、支援用図書の収集を行う。	
◆参考数値 ・協力貸出点数＜含児童書・県立学校への貸出分を除く＞ R7年度：39,750点、R6年度：41,326点、R5年度：40,319点、R4年度：36,574点 ・県立学校等の団体貸出点数【再掲】 R7年度：8,456点、R6年度：3,941点、R5年度：4,786点、R4年度：4,253点		

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 オートピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 (1) 市町村立図書館や学校図書館への支援	
⑦物流による資料の配送・協力貸出・相互貸借	
県立図書館	
子どもや学校が必要な本などをすぐに手にすることができるよう、市町村立図書館等が所蔵しない本などを県立図書館が毎日発送し（休館日を除く）、迅速な提供を進めるように継続して取り組みます。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
- 県立図書館の本来的な機能として、協力貸出に 応じている。 - 市町村立図書館や大学図書館等を対象として、 県立図書館からの協力貸出資料や県内図書館 間の相互貸借資料の物流を担う「物流サービ ス」を引き続き提供している。 - 県立学校支援の一環として、私立を含む全高 等学校に対しても「物流サービス」を引き続 き提供し、県立図書館からの団体貸出資料の 送付を行っている。	【成果】 - 物流取扱い総点数は引き続き増加傾向にあり、県内図書館間の相互協力の基盤として不可欠なサービスとなっている。 【課題】 - 市町村立図書館等の職員の交代により、物流サービスの利用が滞るケースがある。 【今後の方向】 - 引き続き、安定的に物流サービスを提供できるように取り組む。 - 巡回訪問や、マニュアルを必要に応じて更新するなど、利用方法について、市町村立図書館や県立学校等に分かりやすく伝える。
◆参考数値	
物流取扱い総点数 R 7年度：144,611点、R 6年度：140,639点、R 5年度：143,760点、R 4年度：136,054点	
⑧児童書の全点購入による市町村立図書館・学校図書館等選書支援	
県立図書館	
市町村立図書館や学校等が本の選定の参考にできるように、出版された児童書を全て購入し、一年分を児童図書選定支援コーナーに展示しています。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
- 市町村立図書館や学校の職員、ボランティア等が集まる機会に、コーナーの見学や案内チラシの配布を行うなど、積極的にPRを行った。 - 高知県教育だより「夢のかけ橋」にコーナーの案内を掲載したほか、図書館内で配布している団体利用の案内でもコーナーについて紹介した。 - 高知市教育研究会図書館教育部会の研修でチラシを配布し、コーナーの見学を行った。	【成果】 - 他のイベントや研修の開催に併せて利用する団体が多く、特に、夏休み中は数多く利用された。 【課題】 - 利用者が固定化しているため、より多くの団体に活用していただけるよう、利用方法などのPRが必要。 【今後の方向】 - 引き続き資料の収集に取り組みながら、より多くの方に利用してもらえるようなPR、選書についての研修について実施を検討する。
◆参考数値	
選定支援コーナーの利用件数 R 7年度：27件（57名）、R 6年度：32件（65名）、R 5年度：26件（73名）、R 4年度：29件（75名）	
⑨巡回訪問や依頼訪問等による支援	
県立図書館	
県の東部、中部、西部の各ブロックに担当司書を配置し、市町村立図書館等への巡回訪問や依頼訪問等により、市町村立図書館等の運営やサービスの充実に向けた助言等、一層の支援に取り組みます。	
D 第四次 これまでの取組状況	C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向
県内を3ブロックに分け、担当司書を配置し、各館の運営状況や課題の聞き取り、サービスや取組についての助言などを行った。	【成果】 - 個別に訪問・情報提供を行ったことにより、新たなサービスの開始や啓発展示の実施など取組の強化・創出につながった。 【課題】 - ノウハウ等の共有・助言など、各市町村の状況等に応じた支援を行う必要がある。 【今後の方向】 - 引き続き、訪問等を通じて、市町村立図書館等を支援する。
◆参考数値	
巡回訪問の実施状況 【再掲】 R 7年度：延べ69回、R 6年度：延べ83回、R 5年度：延べ52回、R 4年度：延べ92回	

第四次高知県子ども読書活動推進計画（R4～8） 総括

1 オーテピア高知図書館と連携した読書環境の充実・強化 (1) 市町村立図書館や学校図書館への支援

⑩児童書・児童サービスに関する情報収集と提供

県立図書館

子どもへの図書館サービスの取組等、様々な情報を収集するとともに、市町村立図書館等へ児童書や児童サービスの参考になる情報提供に取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・子どもの読書に携わる方の参考となる資料を重点的に収集し、こどもコーナー内の児童図書研究コーナーに集約・提供した。市町村向け通信『SariSari通信』に、新刊図書の紹介文を掲載した。
- ・県外やオンラインで開催される各種研修会等の情報を、市町村立図書館向け・県立学校向けのブログでそれぞれ発信した。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・イベント等の機会にコーナーの資料を紹介することで、子どもの読書に携わる方の利用につながっている。
- 【課題】
- ・市町村や学校図書館の職員等に、児童図書研究コーナーが十分に知られていない。
- 【今後の方向】
- ・児童図書研究コーナーがより利用しやすいコーナーとなるように、配架方法の工夫などを検討する。
 - ・引き続き、研修やイベント等の機会を通じてPRに取り組む。

⑪図書館サービスや本の紹介の広報誌への掲載等

県立図書館

オーテピア高知図書館広報誌『コトノハ』（年3回発行）や、市町村向け通信『SariSari通信』（毎月発行）、オーテピア高知図書館こどもとしょかんしんぶん『あひるちゃん』（毎月発行）、ティーンズ向け通信『ティーンズ通信』（年4回発行）等でサービスや本の紹介に継続して取り組みます。

D 第四次 これまでの取組状況

- ・対象者別の広報紙を定期発行し、新着本やサービスの紹介、イベント案内等を行った。広報紙は図書館見学やイベント時に配布したほか、県内の学校や図書館、関係機関等へも送付した。
- ・ティーンズ層に届けるための情報発信の一環として、高知県人権・男女共同参画課、社会福祉法人みその児童福祉会にんしんSOS高知みそのらんどと連携した『ティーンズ通信』を作成した。
- ・高知県教育だより「夢のかけ橋」へ継続的に記事を掲載することにより、教職員に対してサービスの周知を行った。
- ・『SariSari通信』の伝言板に、他機関で実施する子どもと読書に関するイベント情報を掲載した。

C 第四次の成果・課題 / A 今後の方向

- 【成果】
- ・専門機関と連携することで、対象者の悩み等により一層寄り添う内容の情報発信につながった。
 - ・作成した広報誌は、ウェブ・サイトやSNSに掲載することで、図書館を利用しない対象者にも情報を届けることができた。
 - ・イベントの参加者増など、利用促進につながっている。
 - ・『あひるちゃん』や『SariSari通信』に紹介した本の問い合わせがあるなど、図書館の利用促進につながっている。
- 【課題】
- ・図書館への興味・関心を喚起し、多くの方に手に取ってもらえるような内容にしていける必要がある。
- 【今後の方向】
- ・画一的な内容にならないように留意しながら、必要な情報を提供し、図書館への関心を高める紙面づくりに取り組む。
 - ・今後も対象者に届くような方法で、対象者が必要としている情報の発信を行う。

			第3次計画		第4次計画				R8 目標値
指標			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
①	家や図書館で普段(月～金)の読書時間が10分以上の割合(%) (～R5) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」 (質問事項:「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」 ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)より (R6) 県教育委員会調査	小	—	61.5 《61.2》	61.3 《59.6》	59.6 《60.0》	75.7 —	53.6 《53.2》	70.0
		中	—	53.5 《50.1》	50.0 《48.6》	48.9 《49.4》	53.8 —	38 《40.4》	60.0
②	家や図書館で普段(月～金)全く読書をしない割合(%) 小学校・中学校: (～R5) 文部科学省「全国学力・学習状況調査」 (質問事項:「学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」 ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)より (R6) 県教育委員会調査 高等学校:県教育委員会調査 (質問事項:「あなたは、学校や家などで読書を週にどの程度しますか」)より ※【R4】質問から「マンガを除く」を除く	小	—	22.4 《24.0》	24.0 《26.3》	23.6 《24.5》	24.3 —	28.1 《29.2》	13.0
		中	—	33.6 《37.4》	36.3 《39.0》	35.7 《36.8》	46.2 —	44.6 《41.8》	26.0
		高	45.3	46.1	41.5	51.2	55.3	57.5	38.0
③	読み聞かせ運動に参加している保育所・幼稚園等の割合(%) (県教育委員会調査)	幼保	92.1	85.1	87	88.7	87.5	90	95.0
④	読書ボランティアの養成 (県教育委員会調査)	生涯	163	191	184	150	154	139	R4～R8 累計950名 (毎年 180名以上)
⑤	保護者・図書館・ボランティア等の連携の実施率(%) (県教育委員会調査)	幼保	59.8	59.2	63.2	67.0	65.9	64.5	86.0
⑥	児童レファレンス件数(件) ～H29 高知県立図書館調べ H30～ オープン高知図書館調べ	県図	7,236	7,154	5,218	3,405	2,870	1,848	7,900
⑦	協力貸出冊数(冊) <含児童書、県立学校への貸出し分を除く> 高知県立図書館調べ	県図	32,332	36,201	36,574	40,319	41,326	39,750	35,000

「参考」			第3次計画		第4次計画			
項目			R2	R3	R4	R5	R6	R7
①	特別支援学校で読書週間を設定している割合(%) (県教育委員会調査)	特支	62.5	87.5	71.4	64.3	71.4	85.7
②	公共図書館との連携・交流をしている割合(%) 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」 (調査項目:「公共図書館との連携を実施している」)より ※調査実施年度の実績として計上	小	84.0 《86.0》	—	—	—	—	—
		中	68.6 《65.4》	—	—	—	—	—
		高	67.6 《54.5》	—	—	—	—	80.6 《—》
		特支	75.0 《—》	62.5 《—》	85.7 《—》	78.6 《—》	78.6 《—》	85.7 《—》
③	読書ボランティア活用率(%) 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」 (調査項目:「ボランティアを活用している」)より ※調査実施年度の実績として計上	小	75.4 《78.7》	—	—	—	—	—
		中	22.9 《27.9》	—	—	—	—	—
④	学校図書館図書標準の達成率(%) 文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」 (調査項目:「100%以上(学校図書館図書標準を達成している学校数)」)より ※調査実施年度の実績として計上	小	62.6 《71.2》	—	—	—	—	—
		中	42.3 《61.1》	—	—	—	—	—
⑤	学校司書(学校図書館担当職員を含む)の配置率(%) (県教育委員会調査) ※全国値:文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」	小	43.5 《69.1》	44.8 《—》	46.0	45.7	47.2	48.0
		中	41.2 《65.9》	41.2 《—》	42.2	41.1	47.1	45.9
		高	100 《66.4》	100 《—》	100	100	100	100

※《》内の数値は全国値

※「学校図書館の現状に関する調査」令和7年度実施、令和8年度公表予定

第五次高知県子ども読書活動推進計画 骨子案

高知県教育委員会事務局生涯学習課

高知県子ども読書活動推進計画策定の趣旨

すべての子どもが豊かな心を育み、生涯にわたり自ら学ぶことのできる力や生きる力を養うため、高知県内の子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や取組を示し、子ども読書活動の推進や環境の整備・充実を図る。

「高知県教育大綱において目指す人間像（基本理念）」

- ◆学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人
- ◆郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人
- ◆多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人

第一次計画（平成19年度から平成23年度）

第二次計画（平成24年度から平成28年度）

第三次計画（平成29年度から令和3年度）

第四次計画（令和4～令和8年度）

基本目標と取組方針

1 意欲的に読書を楽しむ子どもを育てる

- 1 発達段階に応じた読書活動の推進
- 2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

2 情報を読み取り活用する子どもを育てる

- 3 学校教育における読書活動の推進

3 子どもの読書活動を支える

- 4 オープン高知図書館による読書環境の充実・強化
- 5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

第四次計画 主な目標等の達成状況

〔R7.3.31現在〕

■家や図書館で普段（月～金）の読書時間が10分以上の割合（％）

〔文部科学省：全国学力・学習状況調査、児童生徒読書調査〕

〔小学校目標70.0％〕→〔小 令和7年度：53.6％〕

〔中学校目標60.0％〕→〔中 令和7年度：38.0％〕

■読書ボランティアの養成（累計・人）〔県調査〕

〔令和4～8年度 950人〕→〔令和4～7年度 627人〕

■オープン高知図書館の市町村立図書館等への協力貸出

〔オープン高知図書館調べ〕

〔目標35,000冊〕→〔令和7年度：39,750冊〕

施策にかかわる動き

〔国〕・第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」

・第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」

・学校教育の情報化の推進に関する法律

〔県〕・第3期教育大綱・第4期教育振興基本計画

・高知県読書バリアフリー計画

〔県・市〕・第2期オーテピア高知図書館サービス計画 等

第四次計画の成果と課題/今後の方向性

○成果・▲課題

○図書館見学や図書館活用講座により、図書館の利用促進や図書等の活用につながった

▲発達や特性等に応じた多様な資料があることが十分に知られていない

○▲すべての市町村で子ども読書活動推進計画が策定できたが、計画年限が終了している自治体がある

○指定校において、学校図書館を活用し、言語能力及び情報活用能力を育成するための授業の実践研究が進んだ

▲指定校以外で学校図書館を活用した情報活用能力の育成が進んでいない

○総合的な探究の時間等における高知県電子図書館の活用が増加した

▲読書ボランティア養成講座を毎年開催しているが、終了後の活動場所が見つからない、市町村等からの需要とのミスマッチが起きている

▲市町村立図書館等によるサービス提供に幅がある

今後の方向性

・各図書館サービスのPRの強化、非来館で図書館の使い方を学べるような仕組みをつくる

・発達や特性等に応じた多様な資料の充実やPRの強化を行う

・計画の推進、改定等実施のために情報提供や必要な支援を実施する

・指定校以外にも学校図書館の活用を広めるため、事例を収集し、周知する

・さらなる電子書籍利用向上のため、書籍の充実や情報発信に努める

・ボランティアへの依頼希望者と活動希望者へのマッチング促進のためのシステムを構築する

・市町村立図書館が情報提供機関として住民に認知してもらえる環境づくりの支援を進める



「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第1項

都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない。

第五次計画（令和9～13年度）

第五次計画のポイント

- 環境や発達・特性に応じた読書の機会を提供する。
- 多様な媒体を活用し、読書の幅を広げる。
- 子どもの読書活動を支える基盤を強化する。



基本目標 1

多様な子どもたちの読書を支える

- ・成長や特性に応じた読書活動の推進
（幼児期からの読書習慣の習慣化、中高生向けのイベント等の開催、視覚障害者等や新日本語を母語としない方への図書資料等の提供の充実）
- ・子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組
（市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援、
新「子ども読書の日」「子どもの読書週間」等の啓発）
等



基本目標 2

情報を読み取り活用できる子どもを育てる

- ・学校図書館機能の充実
（学校図書館の組織的・計画的な活用の推進）
- ・学校等における読書活動の充実
（図書や情報を活用した探究的な学びの促進、県立及び市町村立図書館と学校図書館が連携した電子書籍の充実・活用）
等

基本目標 3

子どもの読書の基盤を支える

- ・子どもの読書活動を推進する人材の育成
（環境づくり、研修の充実等）
- ・地域や人とのつながりを深める読書活動の推進
新 ボランティアへの依頼と活動希望者のマッチングの促進）
- ・市町村立図書館等への読書活動の充実・強化の取組
（研修会の実施、訪問支援・情報提供等）
等



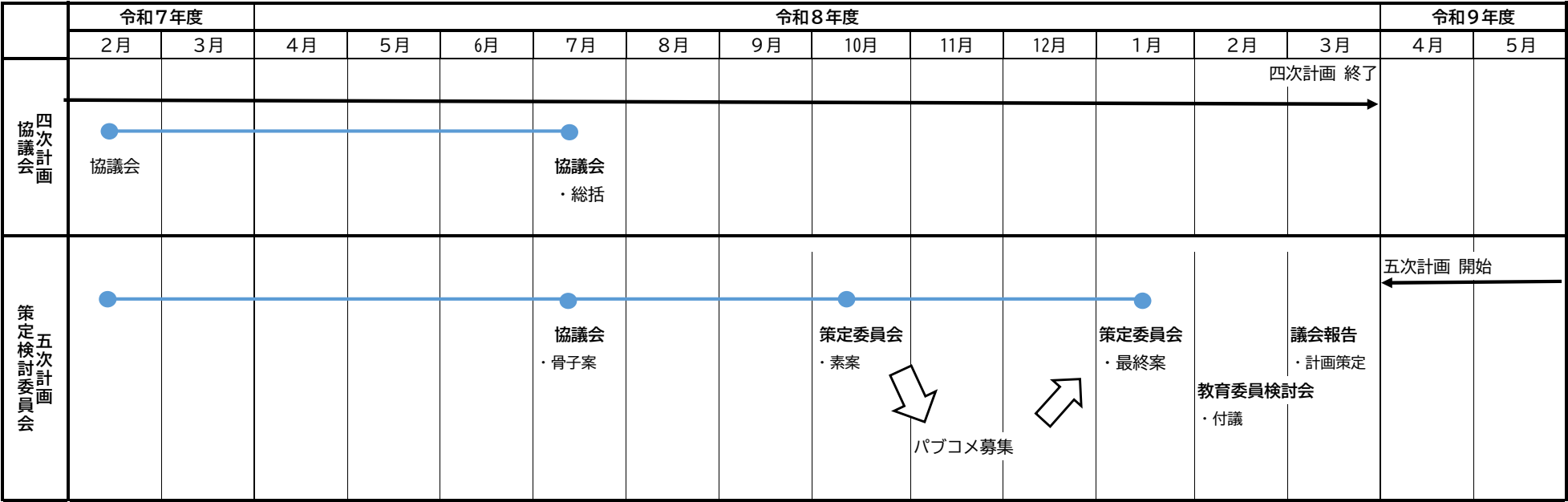
第四次高知県子ども読書活動推進計画

第五次高知県子ども読書活動推進計画（骨子案）

資料4-2

項目名		項目名 ※「★」は項目名変更	担当課	【変更理由】
I 意欲的に読書を楽しむ子どもを育てる		I 多様な子どもたちの読書を支える		※横断的取組は、再掲が多く、県立図書館の取組は実際ほとんどが横断的な取組であるため、各項目に移す。
1 子どもの年齢や発達・特性に応じた読書活動の推進		―		再掲が多いため。
(1) 乳幼児期の取組		(1) 乳幼児期の取組		
①ブックスタート等における本と出会う場づくりの普及・促進	統合	①ブックスタート等における本と出会う場づくりの普及・促進	生涯学習課	
(2) 学童期以降の取組		(2) 学童期以降の取組		
①「生活リズムチェックカード」を活用した読書習慣の定着		①「生活リズムチェックカード」を活用した読書習慣の定着	生涯学習課	
②多様な読書の推進 （「きつとある キミの心に ひびく本」の配付）		②多様な読書の推進★ （「きつとある キミの心に ひびく本」の活用促進）	小中学校課	配付ではなく、ポータルサイトでの掲載に変更したため。
③図書館活用講座の実施	移動			
④ブックリスト・パスファインダーの作成・提供	統合	③資料・情報の収集・提供★	県立図書館	リスト作成に限らず、資料の活用を促進するため。
⑤10代の若者（ティーンズ）の興味関心に応えるためのティーンズ・サービスの実施		④10代の若者（ティーンズ）の興味関心に応えるためのティーンズ・サービスの実施	県立図書館	ビブリオバトル等のイベントもティーンズ・サービスに含まれるため。
⑥ビブリオバトル等の読書の楽しさを知るイベントの実施	統合			
⑦読書活動を通じた異年齢交流の促進	統合			
(3) 特別な支援が必要な子どものための取組		(3) 特別な支援が必要な子どものための取組		
①視覚障害者等への対面音訳サービスの実施	統合	①特別支援学校における読書活動の充実	特別支援教育課	特別な支援が必要な子どものための取組のため。
②視覚障害者等への録音図書やデジタル図書の提供	統合	②バリアフリー図書の充実★	県立図書館	図書館利用に障害がある子どもへのサービスの充実を図るため。
		③日本語を母語としない子どもが利用しやすい資料の充実等	県立図書館	
③図書館への来館が困難な子どもへの貸出サービスの充実	統合	④特別支援学校等への団体貸出★	県立図書館	来館が困難な子どもへの貸出は主に学校・施設を通じて行われるため。
(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組		(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組		
①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援		①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援	生涯学習課	
②「子ども読書の日」（4月23日）等の啓発	拡充	②「子ども読書の日」「子どもの読書週間」等の啓発★	生涯学習課 県立図書館	「子どもの読書週間」等の啓発について、県立図書館でも実施するため。
II 情報を読み取り活用する子どもを育てる		II 情報を読み取り活用できる子どもを育てる		
1 学校教育における図書や様々な情報資源を活用した学習の推進		―		
(1) 学校図書館の機能の充実		(1) 学校図書館の機能の充実		
①小学校・中学校・義務教育学校における学校図書館の組織的・計画的な活用の推進		①小学校・中学校・義務教育学校における学校図書館の計画的な整備・活用の推進★	小中学校課	学校図書館図書基準達成についても整備に含まれるため。
②学校図書館図書標準達成校数の拡大	統合			
③高等学校における学校図書館の組織的・計画的な活用の推進		②高等学校における学校図書館の組織的・計画的な活用の推進	高等学校課	
④特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実		③特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実	特別支援教育課	
(2) 学校における読書活動の充実		(2) 学校等における読書活動の充実		
①図書や情報を活用した探究的な学びの推進		①図書や情報を活用した探究的な学びの推進	小中学校課	
		②図書館見学や図書館活用講座の実施★	県立図書館	講座だけでなく、図書館見学も通じて児童生徒に向けた取組をしていくため。
②生徒の自主的な読書活動の推進		③生徒の自主的な読書活動の推進	高等学校課	
③特別支援学校における読書活動の充実	移動			
		④1人1台タブレット端末からの電子書籍の利用★	教育政策課 高等学校課 生涯学習課 県立図書館	高知県電子図書館のほかに、KinoDenも電子書籍として活用可能なため。
④1人1台タブレット端末からの高知県電子図書館の利用		⑤探究的な学習や語学学習等に活用できる電子書籍の充実	県立図書館	探究的な学習は学校等における読書活動の充実に含まれるため。
III 子どもの読書活動を支える		III 子どもの読書基盤を支える		
1 子どもの読書活動を推進する人材の育成		1 子どもの読書活動を推進する人材の育成		
①子どもが興味・関心を持てる計画的な環境づくり		①子どもが興味・関心を持てる計画的な環境づくり	幼保支援課	
②保育者への園内研修等の充実		②保育者への園内研修等の充実	幼保支援課	
③保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施		③保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施	幼保支援課	
④推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」の活用		④推薦図書リスト「絵本 おはなし・宝箱」の活用	幼保支援課	
⑤読書ボランティアの養成とスキル向上の機会の提供		⑤読書ボランティアの養成とスキル向上の機会の提供	生涯学習課	
⑥推薦図書リスト（「絵本 おはなし・宝箱」）の配付と活用の推進	統合			
⑦市町村立図書館の職員・ボランティア・協力者等に対する研修会の実施	統合	⑥読み聞かせ研修会や講座の実施	県立図書館	順番の変更のみ。ボランティア活動と内容が近いため、項目を近づける。
⑧訪問支援・研修	統合			
⑨文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発		⑦文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発	小中学校課 高等学校課 特別支援教育課 生涯学習課	
⑩読み聞かせ研修会や講座の実施	移動			
⑪教職員等の学校図書館活用力の向上や学校教育に役立つ情報の提供		⑧教職員等の学校図書館活用力の向上や学校教育に役立つ資料・情報の提供★	高等学校課 県立図書館 教育センター	情報だけでなく、資料も提供していくため。
2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進		2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進		
①コミュニティ・スクールや地域学校協働本部、教育機関等と連携した読書活動の推進		①コミュニティ・スクールや地域学校協働本部、教育機関等と連携した読書活動の推進	生涯学習課 小中学校課 高等学校課	異年齢交流も、学校現場だけでなく、地域外へも活動を広げていくため。
		②ボランティアへの依頼と活動希望者のマッチングの促進	生涯学習課	ボランティア活動の機会提供が課題になっており、それに対応するため。
横断的取組				
1 オープン高知図書館と連携した読書環境の充実・強化		3 市町村立図書館等への読書活動の充実・強化の取組		
(1) 市町村立図書館や学校図書館への支援		①図書館サービスに対する支援・助言★	県立図書館	さまざまな図書館サービスについて、研修や訪問等で支援しているため。
①移動図書館や訪問等を通じた公立図書館未設置自治体に対する読書機会の提供やニーズ喚起	分割			
②市町村立図書館におけるティーンズ・サービス実施のための支援	統合	②情報提供機関としての機能強化への支援★	県立図書館	レファレンス・サービスへの協力だけでなく、市町村立図書館等が情報提供機関として機能を強化していけるよう、支援するため。
③探究的な学習や語学学習等に活用できる電子書籍の充実	移動		県立図書館	
④レファレンス・サービスの実施・相互協力		③市町村立図書館等の職員に対する研修会の実施★	県立図書館	訪問・集合問わず研修を実施しているため。
⑤図書館利用に障害のある方への図書館資料の提供	統合	④市町村立図書館等への協力貸出★	県立図書館	3は主に市町村向けの取組とし、学校向けの取組及びオープン高知での直接サービスは1・2で整理するため。
		⑤物流サービスによる資料の配送★	県立図書館	貸出について④と重複しているため。
⑥市町村立図書館や県立学校等へのまとめ貸し	統合 分割	⑥移動図書館による図書館未設置町村に対する支援★	県立図書館	図書館設置・未設置市町村ともに訪問を実施しているため、移動図書館のみを記載。
⑦物流便による資料の配送・協力貸出・相互貸借		⑦児童書の全点購入による市町村立図書館・学校図書館等の選書支援	県立図書館	
		⑧児童書や児童サービスに関する情報の提供・広報★	県立図書館	内容が重複するため。
⑧児童書の全点購入による市町村立図書館・学校図書館等選書支援	統合	⑨読書バリアフリーサービスの実施・普及のための支援★	県立図書館 生涯学習課	市町村でも読書バリアフリーサービス（対面音訳含む）を広げていくため。
⑨巡回訪問や依頼訪問等による支援	統合	⑩読書環境の整備に関する働きかけ★	生涯学習課	教育委員会等に対しても働きかけを実施しているため。
⑩児童書・児童サービスに関する情報収集と提供	統合			
⑪図書館サービスや本の紹介の広報誌への掲載等	統合			

第五次高知県子ども読書活動推進計画の策定に向けたスケジュール（案）



※必要に応じて、追加で策定検討委員会を書面開催する場合があります。